

第 1 回墨田区行財政改革推進会議における意見のまとめ

1 【財源対策に係る意見】

- ・行財政改革というと、削るほうばかりに目がいってしまうが、財源を増やしていく方策も考えてほしい。国や都からの交付金が多いというのも自慢できない話であって、区の独自財源への取組が足りない。一番簡単なのは、区の財産を売ってしまうことだと思うが、将来的には決してよいことではない。

「項目 5」戦略的広報の展開

- ・広報広聴戦略プランの推進

「項目 16」未利用公有地等の活用・処分

- ・公有地の利用方法検討と貸付・売却の実施

「項目 19」債権管理の適正化

- ・徴収率向上対策の推進
- ・収入未済の圧縮

「項目 20」収入の確保

- ・新たな収入確保策の検討

2 【ICTの推進に係る意見】

- ・墨田区の職員 1,900 人で、区民ニーズに合った行政サービスを提供していくためには、単純作業や定型作業のシステム化が必要不可欠となる。  
国のデジタル庁設置やSDGsの推進等、行財政改革の一環として、将来を見越してシステム関連に投資していくべき。若い世代では、スマートフォンが主流になっており、高齢者対策は必要であるが、紙の時代は終わっていくはず。デジタル化を進めていかないと、1,900 人の職員では、増え続ける行政需要に対応できない。
- ・デジタル化についても、区民にとって利便性が高いかどうかという、区民目線を持って考えてもらいたい。例えば、デジタルツールを導入したから終わりではなく、導入した結果、区民の利便性がどうなっているのか、職員の事務作業が削減できているのか、という観点で検討していく必要がある。区民目線を持って受益者側の利便性を考えながら、区の課題や現状、財政状況を踏まえて、数値を使いながら相互の関連性を持って計画に示せるようにしてほしい。

- ・デジタル化を何のために、誰のために進めるのか、という視点を持ってもらいたい。デジタル化は目的ではなく、手段であるということをしっかりと認識してほしい。

「項目 2」事務改善の推進

- ・全庁共通業務の効率化

「項目 1 3」適正な職員の定数管理

- ・業務量に適切に応じた職員配置
- ・会計年度任用職員の活用

「項目 1 4」働き方の適正化

- ・働き方改革の推進

「項目 2 3」区民サービス向上のための情報化

- ・ICTを活用した情報発信
- ・手続き等のオンライン化、デジタル化
- ・情報格差の是正

「項目 2 4」効率的な区政運営のための情報化

- ・ICTを活用した業務の効率化
- ・データを活用した区政運営
- ・デジタル化に対応した職場環境の構築

3 【行政サービスのあり方に係る意見】

- ・様々な行政サービスのなかでも、このコロナ禍においては、住民サービスの提供のあり方が問われていると思う。区民の方が、区役所に行けないという環境においては、それこそデジタル化を加速度的に推進していかなければならない。

「項目 1 8」公の役割を見据えた行政サービスの最適化

- ・主要な行政サービスのあり方の検討

4 【受益者負担に係る意見】

- ・これからは、区民に対して、自己負担や利用者負担を求めることが増えてくると

思う。その際、区の財政のあり方がわかると、区民も協力してくれるはず。

「項目 2 0」受益者負担の適正化

- ・ 定期的な使用料・手数料の見直し
- ・ 受益者負担のあり方の検討

5 【公会計制度に係る意見】

- ・ 今回の資料で、特に公会計の部分は、玄人には分かるが、区民にとっては分かり難い資料であると思う。区民の方がこの資料を見ても、結局何が言いたいのか、区政はどうなっているのか、分からないまま終わってしまう。この点においては、工夫の余地があるし、何でも分かりやすく伝えることが重要になってくる。

「項目 4」公会計制度の活用

- ・ セグメント分析の推進

6 【民間委託等に係る意見】

- ・ 保育園の民間委託においても、運営を区内法人に委託した場合は区内でお金がまわっていくが、区外の法人に運営を委託すると区外に公金が流れてしまう。
- ・ 地元地域でお金をまわす取組を続けていくべき。区の発注についても、なるべく区内事業者を優先させて、地産地消のような考え方をもって、地域内でお金をまわすようにしてもらいたい。
- ・ やるべきことは財源を集中させてやらなければならないし、逆に、区の関与を薄くして民間に任せてよい部分もでてくる。そのような民間事業者や区民の方々の背中を押すようなことは区がやらなければならないが、ある程度押したら手を放して自立させるようなことを機能化させていく必要がある。

「項目 3」入札制度の改革

- ・ 入札制度・契約方式の検討

「項目 6」地域力の向上

- ・ 地域力育成・支援計画の推進

「項目 7」大学のあるまちづくりの推進

- ・ 大学との連携

#### 「項目 8」民間活力の活用

- ・ 民間委託等の推進
- ・ 指定管理者制度（公私連携制度含む）の導入と検証
- ・ 指定管理者制度のあり方の検討

#### 7 【高齢者対策に係る意見】

- ・ コロナ禍において、高齢者の認知症が増えている。家族と住んでいれば認知症に早く気付けるが、単身の高齢者については、どうしても気付くのが遅くなってしまい、認知症が進行してしまう。改善策があれば、高齢者の元気と健康、災害時の逃げ遅れ対策等にもつながっていくと思う。
- ・ 総務省主催の地域の未来予測のワーキンググループに関わったことがあるが、2030年のSDGs、2040年の高齢化と人口のピーク、2050年カーボンニュートラルなど、将来予測には3つの段階があって、それぞれの将来の状況からバックキャストで物事を考えることが必要となる。

#### 「項目 22」歳出の適正化

- ・ 医療・介護給付費等の抑制
- ・ 給付・法外事業の見直し

#### 8 【公共施設に係る意見】

- ・ カーボンニュートラルについて、国から宣言がだされたが、おそらく墨田区だけではカーボンニュートラルを達成できない。今後の状況を捉えてシュミレーションしているが、全てをゼロエネルギービルハウスにして、設置できるところ全てに太陽光発電を設置してもギリギリの状態である。  
ただし、墨田区の場合は、2050年に向けて建物の建て替えがどんどん進んでいく。建て替えの際に、ゼロエネルギーの住宅やビルを確実につくっていかねばならない。それでも、おそらく間に合わないため、たくさん土地をもっていて人口が少ない自治体と、墨田区が自治体間連携をしていかないと、カーボンニュートラルは達成できない。墨田区外に様々なかたちで再生可能エネルギー設備を設置していくなど、未来のあるべき姿からバックキャストで考えてほしい。

#### 「項目 15」公共施設マネジメントの推進

- ・ 公共施設マネジメント実行計画の推進

## 9 【水害対策に係る意見】

- ・墨田区民が今一番気にしているのは、コロナではなく水害である。カーボンニュートラル関連で、30年後には、1.5度くらい平均気温が上がると言われている。そうすると、このあたりは海の底になる。要するに、30年後には、そのような事態になり得る可能性がある。

### 「項目23」区民サービス向上のための情報化

- ・ICTを活用した情報発信（災害等緊急時の情報発信強化）

## 10 【空き家対策に係る意見】

- ・空き家相談について、空き家に関する総合相談窓口を運営し、専門家との連携を図りながら、50件以上の相談を受けているとのことであるが、私の実家の近くにも空き家があり、対応に苦慮している。

### 「項目7」大学のあるまちづくりの推進

- ・大学との連携

## 11 【職員アンケートに係る意見】

- ・今回の職員アンケートでは、行財政改革の取組について、その内容を知らないという回答が多い。行財政改革は、区民と職員が一体となって進めていく必要があるため、職員にも行財政改革の取組内容をしっかりと知らせていくべき。まずは、今回のアンケート結果を職員に報告し、職員のモチベーションを上げてほしい。
- ・職員アンケートの調査結果で、行財政改革の取組に対する職員の認知度について「あまり知らない」と「ほとんど知らない」が67%を占めている。まずは、職員に行財政改革の取組を知ってもらい、あわせて区民の認知度も高めてほしい。
- ・職員アンケートの回収率が17.1%という数値が気になった。アンケートは、職員の方の要望が反映される貴重な資料だと思うので、業務で忙しいのは理解できるが、職員の方へのアプローチを変えたりすることで、回収率も上がってくると思う。
- ・職員アンケートのなかで、行財政改革の取組により効果が上がっている取組として、事務事業の再編整理や事務改善の推進が挙げられている。一方で、効果が上がっていない項目としても同じ取組が挙げられている。このことが、行財政改革の

取組に対する職員の意識を端的に表していると思う。

「項目 9」職員力の向上

- ・プロフェッショナル職員の育成と活用
- ・研修の実施による職員能力向上

「墨田区行財政改革推進ナビゲーター会議（PT(プロジェクトチーム)）」との連動を強化する

なお、ご指摘のあった今回の職員アンケートの集計結果については、行財政改革推進ナビゲーターを通じて、職員に報告済み

## 1.2 【SDGsに係る意見】

- ・これからは、SDGsの観点から、ダイバーシティ、多様性の視点を研修に盛り込むべき。墨田区はSDGsのモデル自治体にもなっているし、職員の方々、区民の皆さんの意識として、差別のない墨田区を目指してもらいたい。

「項目 9」職員力の向上

- ・プロフェッショナル職員の育成と活用
- ・研修の実施による職員能力向上
- ・資格取得支援

「項目 10」多様な外部環境からの修得

- ・新たな人事交流・派遣先拡大
- ・民間経験者等の採用

「項目 11」モチベーションの向上

- ・キャリア形成支援
- ・女性の活躍推進
- ・障害者の雇用促進及び活躍推進

## 1.3 【行財政改革実施計画の策定に係る意見】

- ・皆さんが計画を読んで、墨田区をこういう街にしていきたい、そのために自らこういうことに取り組んでいきたい、いろいろ課題があるけど全部をやろうとすると財政が厳しくなるから優先順位をつけて取り組んでいきたいなど、墨田区の状

況が適切に認知され、これからの取組が理解され、そこに協力をしていけるような、分かりやすい計画にしてもらいたい。

- ・職員の方は、各現場における課題や、それに向けての対応策を検討して、区民の皆さんに行き届くサービスを考えて業務についていると思うし、区民の方も墨田区という街を愛して住んでいらっしゃると思う。その気持ちが、未来にもつながっていくような、夢を描けるような行革プランにしてもらいたい。行革というと、削るというイメージが先行してしまうが、もはやそういうものではなく、墨田区という一大企業の舵取りのような、その行く先を示すプランという位置付けになると思う。
- ・現計画の取組成果の資料なかで、計画の目標となる数値があるが、この数値を達成したからどうなるという点が伝わりきらない。数字だけみても、受け取る人によって受け取り方が全く違うため、共通理解が得られるようなかたちで、次期計画に反映させてもらいたい。そうすることによって、職員の方が計画を自分事として捉えるようになり、区民の方の行動変容にもつながっていくと思う。

分かりやすい計画として「次期墨田区行財政改革実施計画・素案」に盛り込む  
また、計画の基本理念を「目指すべき姿」、取組指針を「改革の方向性」として骨子案に反映させ、計画を分かりやすく伝える工夫を加えた